

糖尿病と感染症について

総合診療科 総合内科専門医 丹羽 智宏
糖尿病専門医



糖尿病の患者さんは感染症にかかりやすく、重症化しやすいので気をつける必要があります。これは血糖が高いと白血球の働きが低下することや、血流障害、神経障害が関与するためと言われていています。例えば血糖値が250mg/dl 以上になると白血球の働きが急速に低下することがわかっています。また血流障害や神経障害は、長期間血糖コントロールが不良の患者さんに生じやすくなります。従って血糖コントロールがよい状態を維持できている患者さんは感染症へのリスクが小さくなるといえます。糖尿病の普段の血糖コントロールが重要である理由の一つです。

それでは糖尿病の患者さんはどのような感染症にかかりやすいのでしょうか。

①尿路感染症

膀胱炎や腎盂腎炎などです。神経障害があると排尿障害、残尿が生じやすく、膀胱炎を起こしやすくなります。膀胱炎では尿意頻回、排尿痛、尿の混濁、残尿感などの症状がでます。発熱はありません。感染が膀胱から腎臓まで上行すると腎盂腎炎を生じることがあります。腎盂腎炎になると高い熱が出て、腎臓の位置する腰部が痛くなる症状がでます。

②呼吸器感染症

主に肺炎です。発熱、咳、痰、呼吸苦などの症状がでます。インフルエンザウイルス感染に肺炎が合併することもあります。糖尿病の患者さん

はインフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンの予防接種を受けることが推奨されています。

③皮膚感染症

糖尿病の患者さんは足の皮膚に感染症をおこすことがあります。小さな傷、ひび割れ部などから細菌が侵入することによって起こります。局所の痛み、腫れ、熱感、排膿などの症状がでます。治療が遅れると感染が深部に波及し、壊死性筋膜炎や骨髄炎をおこすことがあります。さらに重症化すると切断術が必要になったり、生命にかかわることもあります。日頃の血糖コントロールをよくするとともに、早期発見、早期治療が重要です。

④歯周病

歯周病は嫌気性菌の感染によって生じます。歯周病により歯周組織に慢性炎症があるとインスリン抵抗性が高くなります。インスリン抵抗性が高いと血糖が高くなりやすく、血糖コントロールが悪化します。逆に歯周病が改善すると血糖コントロールも改善することがあります。口臭、歯の動揺、歯茎の腫れ、歯肉出血などの症状があれば歯科を受診して下さい。また自覚症状がなくても糖尿病の患者さんは歯科を受診し、異常がないか確認してもらうことを勧めています。

以上糖尿病の患者さんに気をつけていただきたい感染症について説明しました。繰り返しになりますが、血糖コントロールが良い患者さんは感染症のリスクが下がります。日頃から血糖コントロールをよくし、予防接種を受けて感染症にかかりにくくしましょう。